

会 議 録

会議名	平成26年度第2回市史編さん委員会議
事務局	教育委員会生涯学習課
開催日時	平成26年11月10日(月) 午前10時～10時50分
開催場所	市役所第二庁舎801会議室
出席者	委員 出席(根岸委員長・小野副委員長・林委員・井上委員・牛米委員・中嶋委員・山本委員)以上7名
	欠席
	事務局 石原課長・高木主事・伊藤主事
傍聴の可否	◎可・不可・一部可
	傍聴者：なし
不可の理由	

会 議 次 第

1 報 告

- 1) 近世部会の活動について
- 2) 近代部会の活動について
- 3) 現代部会の活動について
- 4) 市民協力員の活動について
- 5) その他市史編さん活動について

2 議 題

- 1) 27年度の市史編さん事業計画について(事務局)

第3回市史編さん委員会の日程について

平成27年2月16日(月)

【配布資料】

- 資料1 小金井市史 近世編構成案
- 資料2 現代部会の作業状況
- 資料3 小金井市史編さん年次計画

会 議 内 容 (概 要)

1 報 告

(事務局) 市職員選出(3号委員)の上原委員が11月5日付けで副市長を退任したのに伴い本委員会の委員を退任した。

1) 近世部会の活動について

(根岸委員長) この夏から近世部会の活動が本格化した。4名の調査員は、近隣多摩地域の自治体史編さんで実績があるメンバーで構成した。資料編の構成案について、部会で検討し、現在、調査員が分担し構成に見合う史料を選択している。小金井市では、既に『小金井市誌』歴史編・資料編や50数篇に及ぶ編纂資料集が出されており、大半が近世史料である。既に活字化されたものを含めて、小金井の近世の様子が分る史料を並べていきたい。また、通史編の記述を見据えた史料の集め方をしたい。

近世編の構成は10項目を考えている(資料1)。

(1) 近世初期に小金井・貫井という野川沿いに二つの水田中心の村が形成されながら、一方で北側の台地上に人々が進出し、畑の開発が行われた。

(2～6) 18世紀の享保改革の新田開発政策の中で、台地に多くの新田ができ、村域が拡大していき、水田中心の村から畑中心の村に変わっていく。畑の産物が江戸に売られることにより、江戸とのつながりができてくる。一方で貨幣経済・商品経済が浸透し、貧富の差が生じてくる。たびたび災害も起き、村ではそれに対応しながら生活した。

(7～9) 村の人々にはそれぞれ一生の生活があり、信仰や祭礼が行われ、各地を旅しながら見聞を広め、知識を得ていった。また、教育(寺子屋)や俳句や遊びを通じて地域圏・文化圏が広がっていった。

(10) 幕末から近代への動きは、上から下への政治的な流れというより、地域がだんだん豊かになり、人々が成熟していく過程でもある。貫井村の寺子屋では、上層ばかりでなく下層農民まで学んだ。それが、近代を受け入れる大きな力となった。また、野川沿いから台地上への展開が、近代の都市化の景観の前提条件となっている。以上の基本的視点から、史料を編集しようと考えている。

【質疑等】

(山本委員) 「小金井桜」はどこに入るのか。

(根岸委員) 既に『小金井市史 資料編 小金井桜』が出ているので、改めて本資料集には入れないが、玉川上水との関係や花見茶屋の資料があれば載せる。小金井桜は、江戸の人の遊覧記が多い、村の立場でそれをどう受け止めたかという史料があれば入れたい。

(山本委員) 「小金井小次郎」が一人だけ項目に入っているが、川崎平右衛門も入れるべきではないか。

(根岸委員) 川崎平右衛門は市内の人物ではない。人物としてではなく、武蔵野新田開発で扱う。小金井小次郎の資料は少なく、幕末の項目の中に立てられないかもしれない。

(山本委員) 「新編武蔵風土記稿」の中で、小金井の村は何巻に出ているのか。

(事務局) 92巻と93巻に所収されている。

2) 近代部会の活動について (牛米委員)

昨年度発行した『近代資料編』は、通史編を書くための章立てであったが、もう一度、章立てを変更した方が良いと思っている。改めて見ると、産業関係や大正・昭和の行政資料が意外と少ないことがわかった。それを補うことが課題である。現在、月1回、文化財センターで部会(勉強会)を開催し、通史編をにらんで、今までの収集範囲で欠けていた部分を補う資料の調査結果や、資料の考え方について、共通認識がもてるように勉強会を行っている。地元のことを知っている事務局の方の同席と助言をお願いしている。

【質疑等】

(山本委員) 通史編はいつ発行するか。

(事務局) 年次計画では、平成30年度(市制施行60周年)を予定している。

(井上委員) 『近代資料編』は、目次構成を見ると、よく出来ていると思った。

3) 現代部会の活動について(資料2)

(中嶋委員) 調査員4名で活動している。来年度に資料集刊行の予定、現在、資料選択・収集を行っているが、やや遅れており、資料が出揃うのは来年度の中盤になりそう。時期別に編成している。章立ては1章から5章まで。資料選択の重点は、政治と行政、生活、文化・歴史、あそび(児童館・まつり)も重要。議会の議事録の調査では、行政の動きをみている。雑誌の調査(市立図書館・大学所蔵機関)を進めている。

【質疑等】

(山本委員) 「小金井平和の日」を決めるにあたり、小金井の空襲被害は明確ではなかったようだが、資料集ではあつかうのか。

(中嶋委員) 人的被害の報告はない、1940年末に中央線武蔵小金井駅構内の西側に爆弾が落ちたという記録ある。機銃掃射については、記録がなく、記録と記憶とが重ならない部分がある。

(山本委員) 市長と語る会では、多くの人が、機銃掃射があったことを証言している。個人の回想談も市史で扱うのか。

(中嶋委員) 記憶(証言)の取り扱いは、今後の課題としたい。

4) 市民協力員の活動について

平成22年度から市民協力員に、独自の調査をお願いしている。毎月、活動報

告を受けており、通史編に活用願いたい。調査内容について、次回の委員会に詳細を報告する。年次計画では、市民協力員の活動は、本年度までとなっているが、来年度も継続したいと考えている。

5) その他市史編さん活動について

- 1) 古文書調査委託について、梶野家文書の続きの筆写を、根岸委員に委託する予定。
- 2) 市史編纂資料第 54 編「上小金井村光明院文書」の原本構成が終わり、今年度中に発行する予定。

2 議 題

1) 27 年度の市史編さん事業計画について（資料 3）

（事務局）

- ・市史編さん委員会を 3 回開催する
- ・新たに考古部会を立ち上げる。
- ・近世部会は平成 28 年度の資料集発行にむけ、活動する。
- ・近代部会は通史編（平成 30 年度）にむけ、調査・研究を継続する。
- ・現代部会は、27 年度末までに資料集発行のため、編集作業を進める。
- ・市史編纂資料集第 55 編は「下小金井村鴨下家文書」を発行する。
- ・市民協力員の活動も継続する。その成果について、部会員と共通理解を得られる機会をもちたい。

【質疑等】

特になし。

（根岸委員長）27 年度の事業計画（案）についてよろしいか。

（各 委 員）異議なし。

（根岸委員長）その他の報告、議題はあるか。

（事務局）文化財保護関係の報告をする。玉川上水のモデル整備区間にある歩道橋を人道橋に架け替える事業を行っている。また、関野橋から梶野橋間の桜並木の整備も計画している。人道橋の名称について、市民から橋名を募集しており、庁内の検討委員会で決めることにしている。

（根岸委員長）質疑がなければ、第 3 回委員会は、前回決めた平成 27 年 2 月 16 日（月）としたい。議事が終了したので、平成 26 年度第 2 回市史編さん委員会を終了する。

以 上